



## 平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年11月9日

上場会社名 カドカワ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9468 URL <http://info.kadokawadwango.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川上 量生  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 小松 百合弥 TEL 03-3549-6370  
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	101,473	1.7	2,858	△35.3	3,039	△24.2	1,749	△42.1
29年3月期第2四半期	99,795	6.2	4,419	26.1	4,011	△4.6	3,020	57.8

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 2,492百万円 (△3.7%) 29年3月期第2四半期 2,589百万円 (△14.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	25.81	—
29年3月期第2四半期	44.54	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第2四半期	240,067	111,496	45.7	1,643.41
29年3月期	246,949	111,724	44.5	1,620.10

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 109,597百万円 29年3月期 109,908百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期（予想）	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	212,000	3.1	5,800	△31.1	6,200	△16.3	3,500	△39.3	51.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期2Q	70,892,060株	29年3月期	70,892,060株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	4,202,868株	29年3月期	3,051,562株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期2Q	67,783,852株	29年3月期2Q	67,815,934株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書 .....	7
四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報) .....	10
(重要な後発事象) .....	10

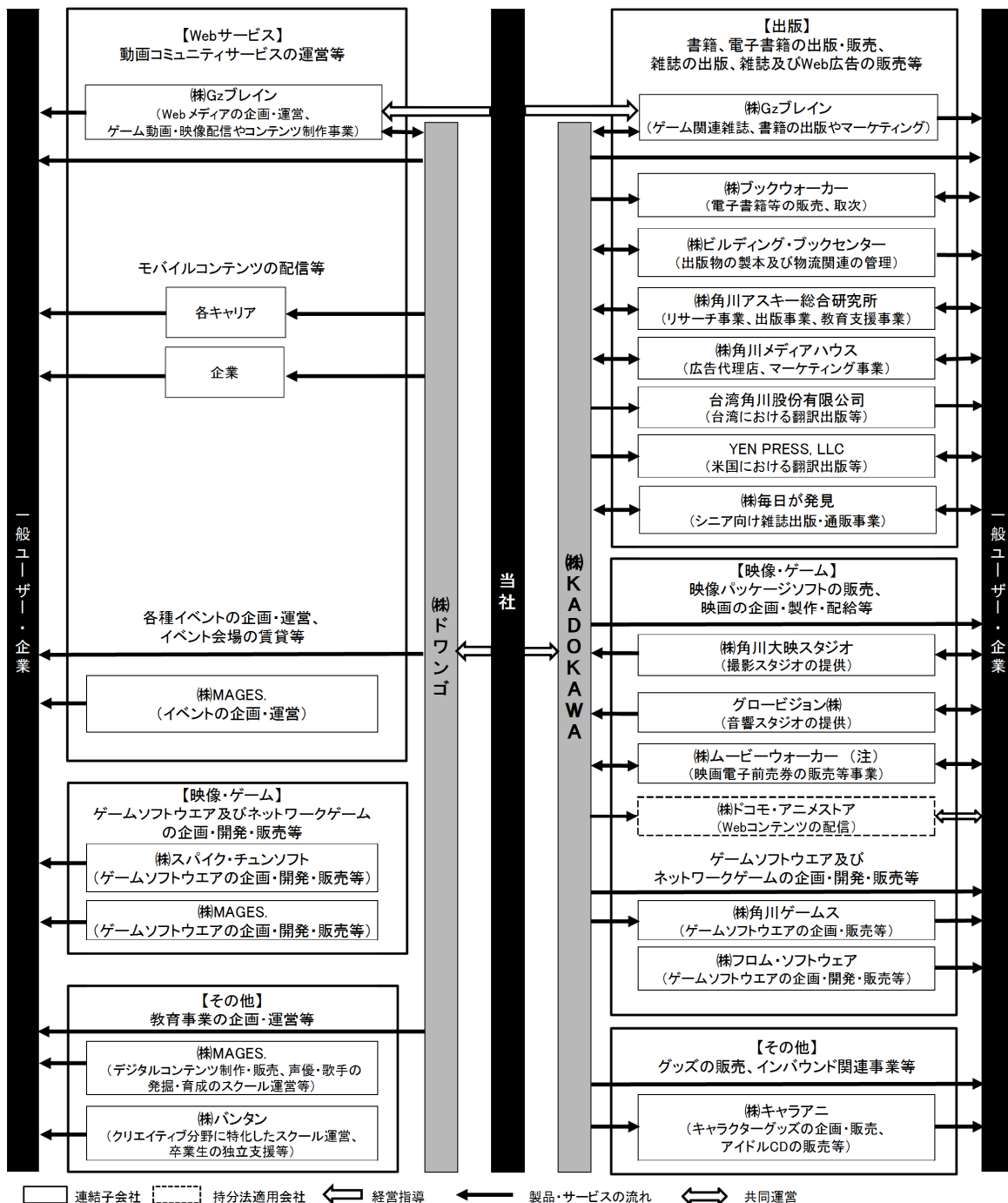
1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、あらゆるコンテンツの価値を高めるプラットフォームとしての飛躍を目指し、出版から総合メディア企業を目指す株式会社KADOKAWAと、ネットとリアルとの融合を目指すIT企業株式会社ドワンゴの創造性を結集しながら、魅力あるコンテンツをあらゆるメディアにマルチ展開させて収益を最大化させるメディアミックス戦略を積極展開しております。

当社は、ゲーム情報ポータル事業を行う事業持株会社として運営してまいりましたが、平成29年7月3日をもって、環境変化へのスピーディーな対応を行うとともに、新中期ビジョンに掲げた「ネット時代のメディアミックスの進化」を着実に推進すべく、①グループのリソースとノウハウを活かしたシナジー事業や新規事業の積極化、②事業子会社における迅速な事業執行、③持株会社におけるグループの迅速な経営判断の実現を目的として純粋持株会社へ移行し、ゲーム情報ポータル事業を会社分割により新設会社である株式会社Gzブレインに承継させました。

当社グループの事業系統図は次のとおりとなっております。



(注) 平成29年7月に、旧社名株式会社エイガウォーカーより社名変更しております。

当第2四半期連結累計期間における各セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

Webサービス事業のうち、ポータルにおいては、有料会員「プレミアム会員」が当第2四半期末で228万人に減少した一方で、「ニコニコチャンネル」の有料登録者数は64万人まで増加しました。また、スマートフォンへの対応のほかにも様々な最先端の機能が搭載されたniconicoの新バージョン（く）（読み方：クレッシエンド）の開発投資負担が先行しました。

一方、競合する動画配信サービスとの大きな差別化要因であるライブにおいては、平成29年4月に開催した「ニコニコ超会議2017」の2日間の会場来場者数は15万4,601人と過去最高を記録、8月に開催した世界最大級のアニソンライブ「Animelo Summer Live 2017 -THE CARD-」には3日間で8万1千人を集め、インターネット文化やコンテンツの価値をリアルイベントで共有することへの関心の高さを確認できました。また、「ニコニコ超会議」の「町」版である「ニコニコ町会議」の全国ツアーを8月から10月にかけて7会場で開催し、各町の特徴と文化、ネットとリアルが融合したエンタテインメントを体験する機会を広げております。NHN PlayArt(株)との共同プロジェクトによるゲーム「#コンパス～戦闘摂理解析システム～」や、ゲーム実況集団M.S.S Projectのグッズ販売等の収益事業も強化しております。

モバイルでは、音楽配信サービスのダウンゴジェイピーの会員数は減少が続いておりますが、(株)NTTドコモが運営する「スゴ得コンテンツ®」にて平成29年6月に提供開始した「ダウンゴジェイピー forスゴ得」の売上は着実に増加しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は154億6百万円（前年同期比4.2%減）、セグメント利益（営業利益）は3億93百万円（前年同期比77.4%減）となりました。

出版事業のうち、書籍においては、前年同期に映画「君の名は。」関連書籍をはじめとする大ヒット作が相次いだこと及び平成32年4月にフル稼働を予定している製造・物流一体の最新鋭工場の準備費用等により、前年同期比では減益となりましたが、一方で、大ヒット作に依存せず、ヒット作の量産で着実に利益を上げる仕組みが定着してきております。攻略本・ビジュアル本、文芸単行本は想定を上回り、「うつヌケ」、「女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと」、「いのちの車窓から」等、ノンフィクション分野における新機軸のジャンル展開で、新たな収益の柱を創出できました。シリーズ作品では「けものフレンズBD付オフィシャルガイドブック」、「Fate」、「この素晴らしい世界に祝福を!」、「プラタモリ」等が好調を維持しております。また、夏アニメで人気を博した「ようこそ実力至上主義の教室へ」がヒット作品群に加わり、「ナミヤ雑貨店の奇跡」や「鹿の王」の文庫が順調に部数を伸ばしました。

電子書籍・電子雑誌では、(株)NTTドコモが運営する雑誌読み放題サービス「dマガジン」からの収益が想定を上回ったほか、総合電子書籍ストア「BOOK☆WALKER」ではライトノベル、他社が運営する電子書籍ストアでは「ダンジョン飯」、「幼女戦記」等のコミックスの売上が好調でした。

雑誌では、販売や広告売上の減少が続く市場環境に対応するため、ウェブメディアへの移行等ビジネスモデルの転換を図る中で、創刊30周年を迎えて月刊化した「レタスクラブ」は、厳しい市場環境下でも販売部数を伸ばすことができました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は543億99百万円（前年同期比1.2%増）、セグメント利益（営業利益）は24億円（前年同期比38.2%減）となりました。

映像・ゲーム事業のうち、映像においては、「ノーゲーム・ノーライフ ゼロ」、「劇場版 Fate/kaleid liner プリズマ☆イリヤ 雪下の誓い」の劇場公開、「ロクでなし魔術講師と禁忌教典」、「メイドインアビス」の海外版権、「この素晴らしい世界に祝福を!」、「劇場版 艦これ」、「幼女戦記」のパッケージ等、アニメが業績を牽引したほか、スタジオ事業や映画の電子チケット販売が好調でした。

ゲームでは、コンソールゲーム「DARK SOULSⅢ」、アプリゲーム「天華百剣 -斬-」、「結城友奈は勇者である 花結いのきらめき」の貢献が続き、「ダンガンロンパ」シリーズの旧作を中心に、Steamでの販売が想定を上回りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は230億71百万円（前年同期比7.0%増）、セグメント利益（営業利益）は18億89百万円（前年同期比44.1%増）となりました。

その他事業には、キャラクター商品やアイドルCDのeコマース、アニメやniconicoから生まれたコンテンツの販売や著作権利用料収入、クリエイティブ分野で活躍する人材を国内外で育成するスクール運営収入等が含まれております。今後の成長の柱として期待されるインバウンド関連の事業開発費用や調査費用も計上されており、当第2四半期連結累計期間の売上高は101億40百万円（前年同期比2.2%増）、セグメント損失（営業損失）は2億12百万円（前年同期 営業損失5億87百万円）となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,014億73百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益28億58百万円（前年同期比35.3%減）、経常利益30億39百万円（前年同期比24.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益17億49百万円（前年同期比42.1%減）となりました。

なお、株主還元の充実及び資本効率の向上を図るため、平成29年8月24日開催の定時取締役会において平成29年12月29日までを対象期間、2,500千株、30億円をそれぞれ上限とする自己株式の取得を決議したことに伴い、当第2四半期連結会計期間において1,332,400株を取得しております。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債、純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて68億82百万円減少し、2,400億67百万円となりました。自己株式の取得、支払手形及び買掛金並びに未払金の支払等により現金及び預金が減少しました。

負債は、前連結会計年度末に比べて66億54百万円減少し、1,285億70百万円となりました。返済により長期借入金が減少したことに加えて、支払手形及び買掛金並びに未払金が減少しました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて2億28百万円減少し、1,114億96百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことにより利益剰余金が増加した一方で、配当金の支払等により資本剰余金が減少し、さらに自己株式の取得により株主資本が減少しました。

### ②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、当四半期末日が金融機関休業日であったため売上債権回収額が減少したことに加えて、仕入債務の減少等により、51億19百万円の支出（前年同期は20億81百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預け入れや有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出等により、60億74百万円の支出（前年同期は35億15百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得及び配当金の支払等により、40億3百万円の支出（前年同期は379億98百万円の収入）となりました。

以上の結果、為替換算差額も含めて152億36百万円の支出となり、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、759億3百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績見通しにつきましては、当社グループを取り巻く事業環境の変化は早く、それに伴い当社の業績も短期的に大きく変動することも想定されることから、通期の業績予想のみを開示することとしております。なお、通期連結業績予想については、平成29年5月11日に公表しました業績予想から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	105,542	93,582
受取手形及び売掛金	40,207	41,827
有価証券	—	999
たな卸資産	16,829	17,730
前払費用	1,532	1,662
繰延税金資産	5,595	5,224
預け金	2,547	3,082
その他	3,364	3,738
貸倒引当金	△737	△793
流動資産合計	174,880	167,054
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	15,565	15,779
減価償却累計額	△4,637	△4,951
建物及び構築物 (純額)	10,927	10,827
機械及び装置	718	1,561
減価償却累計額	△322	△453
機械及び装置 (純額)	396	1,107
工具、器具及び備品	10,342	10,946
減価償却累計額	△7,267	△7,735
工具、器具及び備品 (純額)	3,074	3,211
土地	20,275	20,275
建設仮勘定	976	485
その他	353	344
減価償却累計額	△204	△219
その他 (純額)	149	124
有形固定資産合計	35,800	36,031
無形固定資産		
ソフトウェア	5,792	5,700
のれん	925	1,268
その他	1,661	1,604
無形固定資産合計	8,379	8,574
投資その他の資産		
投資有価証券	21,029	21,802
退職給付に係る資産	55	52
差入保証金	3,762	3,874
その他	3,654	3,251
貸倒引当金	△613	△574
投資その他の資産合計	27,889	28,406
固定資産合計	72,068	73,012
資産合計	246,949	240,067

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,862	24,099
短期借入金	481	588
1年内返済予定の長期借入金	2,158	2,148
未払金	6,823	5,147
未払法人税等	1,801	1,324
前受金	7,538	6,623
預り金	2,617	2,652
賞与引当金	3,262	3,115
ポイント引当金	90	89
返品引当金	7,252	6,374
株式給付引当金	124	141
役員株式給付引当金	286	126
その他	2,858	2,682
流動負債合計	61,159	55,114
固定負債		
長期借入金	64,941	63,820
繰延税金負債	3,977	4,358
退職給付に係る負債	3,331	3,265
その他	1,814	2,012
固定負債合計	74,065	73,456
負債合計	135,224	128,570
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,625	20,625
資本剰余金	63,585	62,096
利益剰余金	27,808	29,558
自己株式	△4,889	△6,215
株主資本合計	107,130	106,063
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,561	2,566
土地再評価差額金	10	10
為替換算調整勘定	1,194	935
退職給付に係る調整累計額	11	21
その他の包括利益累計額合計	2,778	3,533
非支配株主持分	1,816	1,899
純資産合計	111,724	111,496
負債純資産合計	246,949	240,067



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	99,795	101,473
売上原価	70,591	73,480
売上総利益	29,203	27,992
販売費及び一般管理費	24,783	25,133
営業利益	4,419	2,858
営業外収益		
受取利息	45	43
受取配当金	160	234
持分法による投資利益	392	367
その他	238	198
営業外収益合計	836	843
営業外費用		
支払利息	48	49
為替差損	399	—
寄付金	749	610
その他	47	3
営業外費用合計	1,244	662
経常利益	4,011	3,039
特別利益		
投資有価証券売却益	22	320
投資有価証券償還益	—	125
子会社株式売却益	—	13
特別利益合計	22	459
特別損失		
投資有価証券売却損	—	196
投資有価証券評価損	—	32
関係会社清算損失引当金繰入額	—	71
会員権評価損	26	—
その他	5	0
特別損失合計	31	300
税金等調整前四半期純利益	4,002	3,198
法人税等	974	1,444
四半期純利益	3,028	1,753
非支配株主に帰属する四半期純利益	8	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,020	1,749

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	3,028	1,753
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,213	1,005
繰延ヘッジ損益	△34	—
為替換算調整勘定	△1,445	△253
退職給付に係る調整額	19	10
持分法適用会社に対する持分相当額	△193	△24
その他の包括利益合計	△439	738
四半期包括利益	2,589	2,492
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,623	2,505
非支配株主に係る四半期包括利益	△34	△13

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	4,002	3,198
減価償却費	2,196	2,574
のれん償却額	80	118
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	30	△48
返品引当金の増減額 (△は減少)	△1,312	△873
賞与引当金の増減額 (△は減少)	492	△147
受取利息及び受取配当金	△206	△277
持分法による投資損益 (△は益)	△392	△367
売上債権の増減額 (△は増加)	5,728	△1,618
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△7	△931
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,707	△1,759
前受金の増減額 (△は減少)	△2,477	△914
その他	△1,391	△2,849
小計	3,037	△3,896
利息及び配当金の受取額	334	460
利息の支払額	△53	△48
法人税等の支払額	△1,236	△1,635
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,081	△5,119
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	139	△4,375
有形固定資産の取得による支出	△1,965	△1,805
無形固定資産の取得による支出	△1,091	△1,094
投資有価証券の売却による収入	517	965
投資有価証券の償還による収入	—	225
連結の範囲の変更を伴う子会社持分の取得による支出	△1,039	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	21	—
その他	△98	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,515	△6,074
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	178	118
長期借入れによる収入	50,000	18
長期借入金の返済による支出	△11,157	△1,078
非支配株主からの払込みによる収入	420	114
自己株式の取得による支出	△1	△1,742
配当金の支払額	△1,378	△1,391
その他	△63	△41
財務活動によるキャッシュ・フロー	37,998	△4,003
現金及び現金同等物に係る換算差額	△816	△38
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	35,747	△15,236
現金及び現金同等物の期首残高	52,175	91,140
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	43	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	87,966	75,903

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	Webサービス	出版	映像・ゲーム				
売上高							
外部顧客への売上高	15,968	53,028	21,276	9,516	99,789	5	99,795
セグメント間の内部 売上高又は振替高	120	716	279	408	1,523	△1,523	—
計	16,088	53,744	21,555	9,925	101,312	△1,517	99,795
セグメント利益又は 損失 (△)	1,744	3,884	1,311	△587	6,353	△1,933	4,419

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,933百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去69百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益870百万円、全社費用△2,873百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	Webサービス	出版	映像・ゲーム				
売上高							
外部顧客への売上高	15,305	53,655	22,669	9,829	101,459	13	101,473
セグメント間の内部 売上高又は振替高	100	744	402	311	1,558	△1,558	—
計	15,406	54,399	23,071	10,140	103,017	△1,544	101,473
セグメント利益又は 損失 (△)	393	2,400	1,889	△212	4,471	△1,612	2,858

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,612百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去75百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益960百万円、全社費用△2,648百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。